# はげら池のほとりで

Vol.5
H29.2.3

## ～県大と地域をつなぐ～

この情報紙は、県立広島大学庄原キャンパス（以下「県大」と表記）の学生や教授が、どんなことを行っているのかだけでなく、市内で学生と活動している人たちを紹介し、大学と地域をつなぐことを目的としています。

＊タイトルにある「はげら池」は県立広島大学庄原キャンパスにある池の名称です。

*県大活動レポート！*

## 発泡性果実飲料の試飲会

県大の生命科学科阪口利文准教授が取り組まれている学長プロジェクトの研究発表「広島県産果実と備北地域の野生酵母でつくった発泡性果実飲料の試飲会～オール広島県産のものづくり～」が１月 21 日に楽笑座で開催され、木山市長、中村学長のほか関係者約 30 人の方が参加されました。

試飲会では広島県産のリンゴ（庄原産）、ブドウ（三次産）、レモン（瀬戸内産）をブレンドした飲料に、異なる種類のブドウからとれた酵母をそれぞれ加えアルコール発酵させたものと酵母を加えないものの飲み比べをしました。

酵母を加えるとワインのような味わいとなり、加えた酵母の違いによってわずかではありますが、苦みや渋みなどに違いがあるように感じました。

試飲会の様子

また、研究では備北地域の様々な花から採取した酵母菌を使ってパンも作られており、今回はガザニアという花の酵母を使用したパンも試食として提供されました。パンも発泡性果実飲料も備北地域で採れるものを中心につくられており、更なる研究の中で、庄原の新たな特産品として素晴らしい商品ができるのを楽しみにしています。

*卒論発表会レポート*

## バイオフォーラム

１月 31 日に庄原市ふれあいセンターで備北バイオの里づくり推進協議会バイオフォーラムが開かれ約 140 人の方が参加されました。

フォーラムでは、生命科学科黒木英二教授の研究発表や、県大生の卒論、研究成果発表がありました。

卒論発表では、環境科学科の宮口夏菜さんから、安芸高田市をフィールドに有害獣でもある鹿肉のソーセージの食味品質向上に関する研究、生命科学科の岩村優莉加さんからは、中山間地域における女性の起業とその展望について、同じく生命科学科の中島敬さんは、地域への「愛着」の利用可能性について、発表がありました。

バイオフォーラムの様子

いずれの発表も地域の抱える問題に着目した興味深いものでありました。若い人が庄原市へ定住するためには庄原市にいる間に愛着をもってもらうことが大切で、中高年の男性だけでなく、若い人や女性の意見を積極的に取り入れたまちづくりに取り組む必要があると感じました。

*県大研究室たより*

## 雑穀類を地域起こしに～福永健二教授～

福永健二教授

生命科学科の福永健二教授は、植物遺伝資源学、主にアワやキビ、ハトムギ等の雑穀類の遺伝子の違いについての研究を行っておられます。

教授はこれらの雑穀類を自ら耕作放棄地を利用して栽培されており、道の駅で販売されていた観賞用トウモロコシの種を育てられ、その採種にも成功されたそうです。

ハトムギや在来野菜を活用した地域おこしを、ここ庄原でもできないかと考えておられる福永教授。「庄原産のよい在来野菜は中々見つからないため、アワやキビ、タカキビ等は地域おこしに面白いのではないか、特にキビ団子で知られるキビも大変おいしいので、地域でこうした雑穀を活用してはどうか」と話されていました。

*「ボラセン」って知ってる？！*

## 庄原市ボランティアセンター

庄原市社会福祉協議会には「庄原市ボランティアセンター（通称ボラセン）」があります。ボラセンは市民の「ちょっと手伝って！」と「私にも出来ること！！」をつなぎ調整して「喜びと生きがいを感じて暮らせる地域づくり」を皆さんと一緒に取り組んでいます。助けたい人と助けてもらいたい人双方の相談や調整だけでなく、その他にもボランティア活動をしている方達の交流も行っています。

### ボランティアセンター

庄原市社会福祉協議会
　ふれあいセンター内
所在地：庄原市西本町四丁目５番 26 号
E-Mail:info@shakyoshobara-city.or.jp
TEL:0824-72-7120
　担当：三上

担当の三上さんは、「ボランティアセンターに活動者として登録して、センターからのボランティアの依頼を受けるだけと思われがちですがそれだけではありません。“自分にできることがあれば手伝いたい”や“私はこんなことが得意だから、それを活かせる場所がほしい”といったみなさんの思いを聞かせていただいた後、それぞれの方へ活動を提案しています。

具体的にしたいことが決まってなくてもボランティアをしてみたいという思いがあれば、どんなことでも相談に乗るので大学生も気軽に来てみてください。」と話されていました。

担当の三上 千紘 さん

## 編集後記

卒論を発表した宮口さんは、安芸高田市の地域おこし協力隊員からも協力を受けていたとの事で驚きました。聞くところによると、県大で行われている研究の中には、他市と連携しているものも多くあるようです。せっかく県大が庄原にあるのだから、もっと地域と県大がつながり、県大が身近に感じられるようになれば、と思います。まずは今回レポートしたバイオフォーラムのような県大のイベントに皆さん参加してみてはいかがでしょうか？

地域おこし協力隊
日置　大輔

発行：庄原市企画振興部企画振興課自治振興係　Tel：0824-73-1209　メール：jichi@city.shobara.lg.jp
本紙の内容の一部は庄原市 Facebook「庄原いちばん　ええね！」へも掲載しています。